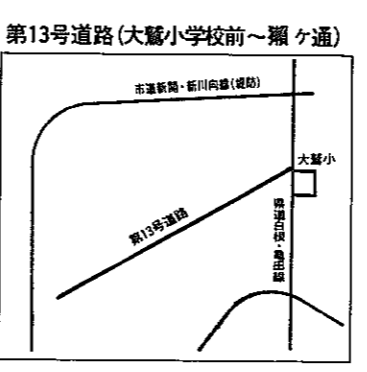
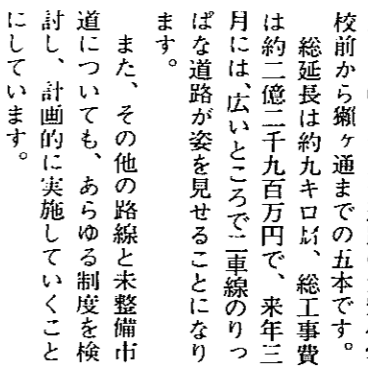
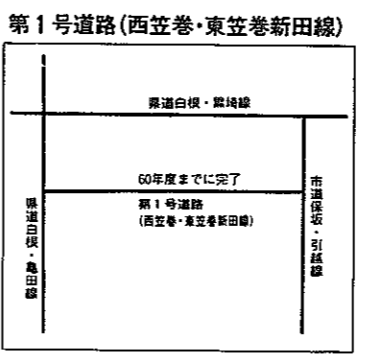
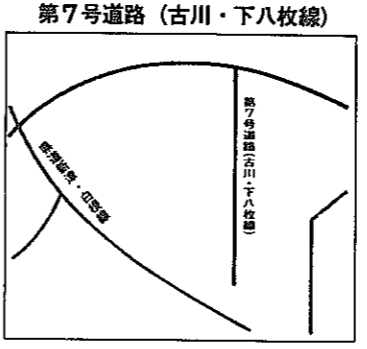


ほ場関連道路舗装に着手

五路線、九キロを二億二千万円で



県営ほ場整備事業による幹線道路の舗装工事が進んでいます。この事業で改良される道路は、八十九路線、約六十九キロです。このうち六十一年度から三か年をめぐりに舗装されるのが三十六路線、約五十七キロで、これが完了すると、市道の舗装率は現在の

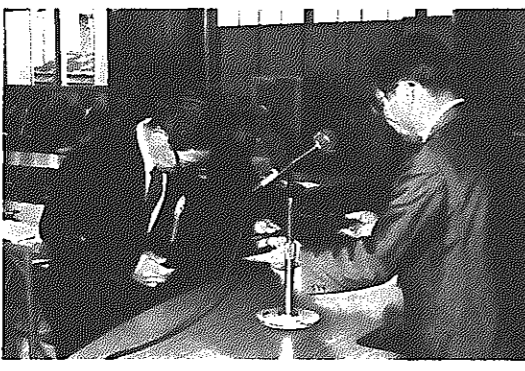


六五%から八〇%に上昇します。本年度舗装される主な路線は①第四十二号道路(菱潟新田・真木新田線) ②第八号道路(諏訪木・鍋湯線)の鍋湯から県道白根・安田線まで ③第七号道路(古川・下八枚線) ④第一号道路(西笠巻・東笠巻新田線)の東笠巻新田地内 ⑤第十三号道路の大鷲小学校前から鵜ヶ通までの五本です。総延長は約九キロ、総工事費は約二億二千万円で、来年三月には、広いところで、二車線のりっぱな道路が姿を見せることになり

また、その他の路線と未整備市道についても、あらゆる制度を検討し、計画的に実施していくことにしています。

市政功勞で十六人と一団体を表彰

十月六日、産業厚生会館で「市政功勞者表彰式」と「嘱託員連絡会議」が開かれました。市政功勞者表彰では、白根市ほう覚規則に基づき「市政の進展」に功績のあった十六人と一団体が、市長から表彰されました。また、長年嘱託



員として、市の発展に寄与された四人の嘱託員には感謝状が贈られました。嘱託員連絡会議では、第三次総合計画と今後の市政の重要課題について市長から説明があった後、質疑応答が行われました。

【永年勤続嘱託員感謝状贈呈】
 ▼渡辺栄吉さん(親和町・五十三歳) ▼田村正一さん(能登第四・六十九歳) ▼皆川 哲さん(能登第五・七十一歳) ▼内藤甚作さん(東笠巻新田第一・五十七歳)

【自治功勞】
 ▼石山守時さん(東笠巻・六十九歳) ▼細貝一雄さん(戸頭・六十三歳) ▼渋谷忠一さん(山崎興野・五十九歳) ▼小田喜好さん(櫛笥・六十七歳) ▼近藤弘さん(沖新保・六十五歳)

多年にわたり、農業委員として地域農業の発展と地方自治の振興

に寄与した功績。
 ▼小林 寛さん(真木新田・六十歳) ▼田村新吾さん(十五間・五十七歳) ▼狩谷松雄さん(桜町第一・六十八歳) ▼遠藤末五郎さん(小蔵主・六十七歳) ▼武藤良弘さん(中鷲ノ木第一・五十二歳) ▼吉田静雄さん(上鷲ノ木・五十五歳) ▼武田吉衛さん(五六ノ町第六・五十六歳) ▼坂井治平太さん(庄瀬第二・七十六歳) ▼平山誠一さん(下道潟・六十二歳)

多年教育の振興に寄与した功績
 ▼笹川喜一郎さん(五六ノ町第四・七十二歳)

多年融資委員として、市政及び商工業の発展に寄与した功績

【産業功勞】
 ▼丸山俊一郎さん(上鷲ノ木・六十八歳)

【感謝状贈呈】
 ▼ダイニチ工業(株) (佐々木文雄代表取締役)
 小林小学校へ相撲土俵施設(百五十万円相当)を寄付した功績

表彰おめでとう 八木さんが 文部大臣表彰



八木宏二さんは、昭和61年度体育功勞者として、10月3日、東京・東條会館で文部大臣から表彰されました。同賞を個人が受賞するのは市内で初めてです。八木さんは現在、日本陸上競技連盟評議員、県陸上競技連盟理事長を務められています。

**商工会婦人部が
全国表彰**

白根商工会婦人部(袖山ヨイ部長)は、袖山部長を中心に、部員が一体となって地域振興事業などに取り組んでいる熱意と実績が認められ、10月6日東京日本武道館で、全国商工会連合会長から表彰されました。

市政短信

**ガス水道料金などの照会
まず需要家番号の報告を**

ガス水道局では、四月からガス水道料金の計算業務を電算化しました。このため、料金の問い合わせや名義変更などの手続きをする際、需要家番号が必要になりました。

番号は左上にあります
 各種問い合わせや転入、転出、住所変更、使用者の名義変更などをする場合、次の「使用料のお知らせ」の左上にある需要家番号をまず報告してください。この番号がお宅の番号です。これがわからないと台帳を探すのに時間がかかり、迷惑をかけることとなりますので、ご協力をお願いします。

「お知らせ」は兼領収書です



十月二十四日、「新潟県工業団地視察会」の一行が北部工業団地を視察しました。

これは、県内の工業団地を宣伝、紹介するため、県が新聞広告で募集して行ったものです。この日は、関東、関西、東海、富山の十県から二十四社が参加し、市長から説明を受けた後、工場建設現場や第二期造成工事の同団地を見て回りました。

来年の風合戦は 六月五日(金)から

昭和六十二年度の風合戦は、六月五日(金)から九日(火)まで行われることになりました。

これは、市、風合戦協会などで協議の上決定されたものです。

鷲ノ木水門の改築に着手

十月二十日、鷲ノ木水門改築の起工式が行われ、市長など工事関係者が工事の安全を祈りました。

同水門は、信濃川、中ノ川、大通川が合流する地点にあり、逆流防止のため昭和三十一年に県が建設したものです。

その後、地盤沈下や新潟地震などで傷みが激しいため、十五億円をかけて改築されることになりました。



消防署レスキュー隊 高さ十一層で連日訓練

新しい水門は、現在位置より約二十層上流に建設され、工事は六十三年度までの三か年計画で行われます。

なったものです。
 高さ十一層で連日訓練

消防署にレスキュー隊の訓練が完成し、隊員の訓練が連日行われています。

レスキュー隊は、消防大学卒業生一人と県消防学校卒業生三人の計四人を中心に十人で編成されていますが、この訓練塔が完成するまでは、本署の壁を利用してロープ懸垂下降などの訓練を行ってきました。

この訓練だけでは同隊の十分な働きができないため、この塔の建設となったもので、訓練塔の高さは四階建ての十一層、ロープの長さは二十五層です。

